

【第2回】医療のまちづくりプロジェクトチーム会議（議事概要）

プロジェクトチーム名：

保健・医療・介護・福祉が連携したまちづくりプロジェクトチーム会議

会議開催日時：令和3年10月7日（木）17時30分～19時24分

会 場：南魚沼市役所本庁舎大会議室

参加者：林市長、外山副市長、病院部局（医師1人、看護師1人、コメディカル2人）、市民代表委員（4人）、市長部局（3人）、事務局（9人）

ゲスト：上田ふるさと協議会（1人）

ゲストスピーカー：株式会社郵便局物販サービス（2人）、越後上田郵便局（1人）

会議の内容・各委員からのご意見

- ・小さな拠点づくりへの取組み状況について
- ・地域の買い物困難者や高齢者の方々の買い物サポート、日本郵政との連携について
- ・南魚沼市の医療の状況について
- ・運営形態別の比較と事例紹介
- ・質疑応答、意見交換など

- 第1回目のプロジェクトチーム会議で、多くの方々から色々な運営形態とか様々あるが、やはり地域医療を持続・継続させていく為に、皆で知恵を絞らなければならないし、そういう立場でこの会議を進めようという所が多く意見の中から聞こえてきたことに嬉しく思った。また、安堵した。
- このプロジェクトチームでは、上田地区を小さな拠点づくりのモデル地区とし、その趣旨に符合する。医療と福祉が相まって、そしてまちづくり。様々な課題があるし、また、上田地区だけで終わらせるつもりはない。12の地域に広め行き渡ったとき、この会の一番の趣旨である、この保健・医療・介護・福祉が連携した素晴らしい南魚沼市の将来像が描いていけると考えている。
- まちづくり推進タスクフォースにおいて提言された交通手段の確保として、上田ふるさと協議会を中心に関係機関、ボランティア等の協力を受け、介護保険地域支援事業を活用して、今年度まめでいきいきクラブ（まめ生き）の参加者の中で希望者に移動支援を始めた。
- 上田地区にある介護事業所から車両を利用しない時間帯に無償貸与してもらい、地区のボランティアの運転手によるまめ生きの会場までの送迎を行っている。
- このスタイルの移動支援については、運行にあわせて損害保険をかけているが、保険会社から県内初であるという事を聞いている。
- 上田地域では、うつ自殺対策として市民病院の医師を講師に招いての勉強会、生活習慣病の見直しをしていただくための勉強会を実施する予定。今後も上田ふるさと協議会と共に地域の皆様と共同して地域の健康づくりを進めたい。

- 往診の片手間となり数は沢山はできないけれども、巡回診療所というのをどのような形でできるか検討している。
- 一人の患者が病院に来るのには、必ず一人の付き添いが来ている。その付き添いは、ほぼ仕事を休まなければならない。そういったことを考えると、社会資源としては大きな損失となる問題があるのではないか。
- 患者さんの問題が少しあるため、時間を少し頂かなければならないが、来年の4月を目安に診療所をオープンできればいいなと考えている。
- 地域のボランティアが新たな保険を使って農村改善センターの方に連れてくるという試みを、市民病院の通院サービスにも利用できないか。
- その前提として、10月1日から市民バスの経路少し変えて、拠点たるこの農村環境改善センターに立ち寄るように変更となった。小さな試みである。市民バスで来れない人達は、ボランティアでやるなど、とにかく地域にある資源を政策的に交通弱者に変えて戦略的にこなすってどうか。
- 高齢者施設向けでローソンの販売ノウハウを使い移動販売サービスをしている。
- 課題として、地元スーパーとタイアップを実現し、売れ筋商品のお魚とお肉と野菜を冷蔵ケースの方に、もう片方に通常の常温商品のローソン商品を積んで販売できるよう考えている。
- 越後上田郵便局をJPローソン配送センター（仮称）とし、こちらにローソンの方から商品を流してもらい、そこで商品を積み、移動販売車両で地元スーパーさんの方で生鮮産三品を積みながら、モデル地区である上田地区の方に回って販売していくという様な案も考えている。
- 販売先ルートの選定について協力いただきたい。今後、実際に欲しい商品を御用聞きさせてもらいながら、上手く集落を回れるようにしたい。
- 事業を継続していくためには、PL上赤字だとなかなか厳しい所もあるので、その辺の支援も頂きたい。
- 小さな地元のスーパーさんを紹介していただきながら、タイアップができないか。
- 販売開始時期についてもプロジェクトチームで協議してもらいたい。販売車両の納車が今最短で4か月位かかることが見込まれる。
- 郵便局物販サービスさんからの提案は素晴らしい。事業をするにあたって、今時期は良いが降雪期になると、除雪の問題や道が狭くなる問題もあるので、そういったあたりの計画が必要になるのではないか。また、冬だと家から販売所まで遠いと出掛けることが大変な事も考えられるため、上田地区のボランティアの方で送迎してもらえるようなことも検討が必要ではないか。
- 今春既存のスーパーが営業しなくなるということで、上田地区や石打辺りのお年寄りが買い物弱者になるのではないかと心配していたが、移動販売サービスという検討をやっただくということで尽力いただき感謝と敬意を表したい。また、上田地区内でも集落で世帯数がバラバラであるので、こまめに回っていただくことによりお年寄りが交通事故にあわないで済むようになればありがたい話である。
- 横浜市青葉区と上田地区では、買い物の仕方というのも正直違って違うのではないか。上田地区では、散歩がてらに買い物（お店）に行くことが日課となっているという話も聞くので、そういった場所があるというのはとても大事であるし、色々な拠点に回ってもらう

事は地域の人の活性化になるのではないかと期待している。

→一方で、雪の問題や買い物にうかがえないという様な方もいる。郵便局とローソンが一緒になって走るのであれば、あらかじめ買い物を聞いてお届けも出来るのではないかな。

そうなれば、顧客が大分確保できるのではないかな。また、上田地区だけでなく他の地区にも広がっていけることを期待している。

○移動販売車が来て、そこに集まってくる。それは、コミュニティの場だという風に思っており、良い事ではないかな。買い物と言うのは、やはり楽しい。提案のあった商品だけでなく、心も潤う様な商品も届けてもらいたい。また、ローソンに行かれるお年寄りも少ないので、何が売っているのかと楽しみにするのではないかな。素晴らしい取組みだ。

○上田地区には、19の集落があるが、その集落に大小あるので、その辺を良く調整してほしい。また、本当の買い物難民は、買い物に出来なくなった方々が本当の難民になっていくのではないかな。そういった方々を助けていくには、元気でそこまで買い物に出来る方、お年寄り同士の繋がりを作ってあげなければならないのではないかな。

○上田地区では、実際に買い物難民状態で生鮮品も買えないとかそういったような事もあるのか。

→住民の中からは声は上がっている。地区内では、唯一生鮮品を時々扱っている商店さんがあるが、要望があると仕入れてくるような形で常日頃置いているようではないようだ。

また、生鮮品を取り扱ってそれを買うかと言われると非常に難しい問題ではないかな。

○人が集まる場所にやるというのは、大事ではないかな。また、保健医療福祉の連携とこういった物品サービスが1つ重なると面白いのではないかな。

○今日実際上田地区を回って見てきた中で、一つないのが雪である。冬はどうしようかという課題が理解できた。また、販売ルートの動線の中で本当に買い物に出来ない方の自宅まで届けるなど、意見を頂きなるほどそうだなと思った。

○郵便物の配送とセットに行うというのは難しいのか。

→『せっかく郵便物を届けているのだから』と言うお客様の声やニーズがあれば、関係者との調整が必要。

○販売に行くことは良いと思う反面、既存のお店が心配だと思っていたが、既存のお店が余りないという事なので、お店に迷惑が掛からなければ良いのではないかな。

○病院の立場からすると、1人具合の悪い方を隣近所が気づかい合い、そういった情報を誰かに伝えてくれる。そういったような繋がり、地域の繋がりが作れるような場所になると良いのではないかな。

○一番心配なのはやはり冬。本当の冬を見て頂けると、その環境とその実際経験した中でまた追加のアイデアが出てくるのではないかな。また、降雪時期と降雪のない時期との中で販売の仕方とか変化があってもよいのではないかな。

○買い物をするという事は、社会参加の場を作り、見守りや支え合うという機会ができる。楽しみの場を作るという所の視点での巡回訪問・販売が活用されたら良いのではないかな。

○買い物リハという言葉がある位、買い物に出かける事自体が活動として社会参加の一環になる方もいる。買い物に行けない方や冬の問題もある。配達とかできるのであればやはり利用者が増えるのではないかな。また、取り扱う商品も高齢者向けにすると利用者も増え、便利ではないかな。

- 提案いただいたサービスは、非常に挑戦というか、様々な高い志を持ち一般的な、単なる採算ベースでやっている事業ではないのではないかと。ここで成功させた事は日本中どこでも成功できるのではないかと。象徴的に医療の現場も大変厳しいし、雪も降る地域ではあるが、行政は一緒になって取り組まなければならない。
- この地区の除雪の問題は、行政とやらなければダメではないかと。お年寄りが来る前に歩道の除雪などがあつたりするので、そういったことを（政策として）やらなければ魂が入らないのではないかと。
- 巡回診療所の会場が、人が集う場所、健康づくり体操をやる場所、なるべく家から出てきてもらい健康を維持する場所になる、そういった拠点になってほしい。そして、そういった小さな拠点を市民バスが巡回しながら入り、ドア to ドアの形に近づけていくこと理想である。何よりも始めてみてみないとならない。
- 小さな拠点づくりは、政府の政策としてあるが、買い物支援というのは、日本全国普遍的な課題であるので、国家プロジェクトのような取組みはあるのか。
- 買い物支援だけの制度というのではないのではないかと。ただ、小さな拠点づくりというのは、総務省の補助事業であり、買い物支援はそのメニューにある。
- あがの市民病院の例で、指定管理料は毎年どれくらいなのか。また、指定管理者は誰がやっているのか。
- 指定管理料については、分からない。
- 法律上の指定管理者は、厚生連。厚生連の理事長、代表者が指定管理者。内部で医療法人の管理者を決めて、現地で病院を運営させているという形。